

過去の教訓を未来へ

広島平和記念式典派遣事業報告

総合政策課総務係 ☎(63)21138

市では平成7年に「平和都市」を宣言し、平成9年から市内の中学生を広島に派遣し、戦争の悲惨さと平和の尊さを学んでいます。戦後80年となる本年も、20人の生徒が広島の地を訪れました。そこで生徒たちが何を感じてきたのかをご紹介します。

※生徒の感想文については一部編集して掲載しています。市ホームページでは事業概要、生徒たちの感想文、記録映像を公開しています。「市政情報」コーナーから「平和行政」のページをご覧ください。



▲折り鶴を奉納する市内中学生

1日目 原爆ドーム、平和記念公園 平和記念資料館等見学

原爆ドーム



▲被爆当時の姿を残す原爆ドーム

派遣団は初めに原爆ドームの見学に向かいました。被爆した当時の姿のまま立ち続けるその姿に衝撃を受け、平和への思いを一層強くしました。

平和の鐘

平和への願いを未来に伝えるため、「平和の鐘」を鳴らしました。この鐘の音には、犠牲者への追悼と、二度と戦争を繰り返さないという強い決意が込められています。

平和記念資料館

生徒の感想

■教科書や映像だけでは伝わらない当時の出来事を体感しました。資料館では焼き焦げた服、「助けて」「水をください」と声が聞こえてきそうな、目を背けたくなる展示品が並んでいました。見たこと、学んだことを周りの人に伝えていくことは、今の私たちの大きな使命だと実感しました。



▲犠牲者への追悼と、戦争を繰り返さない強い決意を込めて



▲平和記念資料館を見学

■原爆の熱により曲がってしまった鉄、被爆者の着用していた衣類、原爆が落ちた8時15分で止まった時計など、今まで想像もできなかったことが本当にあったんだと改めて感じさせられる展示でした。

■広島で暮らしていた人々の様子、一人ひとりの姿が写真として残されており、原爆が投下されるその瞬間まで人々は普通に暮らしていたという事実を改めて実感しました。たった一発の爆弾で、そこにあったはずの平和は崩れてしまったのだと思います。

2日目

平和記念式典参列
灯ろう流し

平和記念式典参列



▲式典に参列する市内中学生

生徒の感想

■地元の小学生が「平和への誓い」で、平和の大切さや今生きている私たちができること、80年前の広島について、とても堂々と会場全員に訴えかけていました。その姿を見て、私たちも出来ることを考え、行動していかなくてはいけないなと思いました。

灯ろう流し

派遣団は、平和への願いを込めて、灯ろうにメッセージを書き入れました。夜の元安川に流れる灯ろうは美しくも幻想的で、派遣団は、世界の恒久平和を願い祈りを捧げました。



▲平和への願いを込めた灯ろう流し

3日目

原爆の子の像に折鶴奉納
平和学習受入プログラム原爆の子の像に
折り鶴を奉納

原爆の子の像は、原爆で犠牲となった子どもたちの霊を慰め、平和な世界を願って平和記念公園内に造られました。派遣団は、市内の各中学校で折った千羽鶴を奉納しました。

ヒロシマ平和学習
受入プログラム

今年から参加したヒロシマ平和学習受入プログラムでは、被爆体験者による講話を受けたのち、全国から集った中高生と戦争や平和についてのグループディスカッションを行いました。被爆者の実際の声や同世代との話し合いは、原爆の悲劇や平和を願う気持ちをより実感するきっかけとなったのではないのでしょうか。

被爆体験者による講話

生徒の感想

■被爆者の方から、「怒りからは平和は生まれない、若者の一人ひとりの力を使えばきっと平和な世界は実現できる」という言葉があり、改めて、私たちが派遣事業で見て、聞いて、感じたことを多くの人に伝えたいといけなと感じました。



グループディスカッション



▲学んだ内容をもとに活発に討議した

生徒の感想

■3日間の見学やディスカッションで特に感じたことがありません。それは「多くの人の夢や希望が原爆によって壊された」ということです。その悔しさと、戦争の悲惨さを知りました。被爆者の方から語られた戦争の体験について、私たちは話し合い、伝承し、次の世代に繋げていかなければならないと感じました。

■被爆者の講話や全国の中高生とのディスカッションを通して、過去の出来事に一人ひとりがしっかりと向き合い、多くの人が戦争の脅威や命の尊さを自分のこととして考えていくべきだと思いました。ただ「戦争はよくない」と言うのではなく、歴史から学び、感じたことを周りに伝えていきたいです。

派遣事業を終えて

生徒の感想

■被爆から80年近く経つ今もなお、平和への願いが世界中から集まっています。式典の黙とうの静けさと、鐘の音が響く瞬間に、言葉では表せない重みを感じ、平和の尊さを改めて心に刻むことができました。

■戦後80年、今も世界各地で紛争が起こっています。それでも核兵器が使用されていないのは、被爆者の努力の結果であると感じます。これからは広島で学んだ僕たちが伝える番だと思っています。

■今回、広島に行って感じたことは、何より「驚き」でした。実際に、広島島の地に足を踏み入れた際に、宇都宮と比べて木が多いというところに気が付きました。広島に住む人々の思いや、力を感じ取りました。

■過去の過ちを忘れず、戦争の悲惨さを語り継ぐことが大切だと思いました。一人ひとりが尊重され、安心して暮らせる社会、それが僕の考える平和です。差別や貧困のない未来への第一歩として、僕は思いやりをもって生活していきます。そういった小さな行いが、戦争のない世の中の実現につながると信じています。

記憶を受け継ぎ、未来をつくる

広島での学びに加え、グループディスカッションによって平和の意味をさまざまな面から捉えることができました。過去の戦争と真摯に向き合った経験を「バトン」として、平和の大切さを次の世代へ語り継いでいくことでしよう。



▲広島を訪問した派遣団。原爆ドームの前で

派遣団団長		湯澤 正弘(鹿沼市立東中学校校長)
回 員		中学校3年生 20人
東 中	田中 義人	中村 杏彩
	藤林 奏海	金子みなみ
西 中	柏崎 司	米澤夢愛亜
	渡邊 夏帆	野沢 稀菜
北 中	青柳 颯真	星野 百奏
	飯野つばさ	
北大飼中	谷中 眞大	若林 八重
北押原中	神山 優芽	大橋 愛心
加蘇中	大貫 光彩	
板荷中	渡辺 優愛	
南摩中	坂入あおい	
南押原中	武田桜太郎	
栗野中	白井 啓介	
引率者	田代 朱美	福田 凌大